

Chor Omi-Hachiman Konsei Japan

Freitag, 10. Juni 2011, 19,00 Uhr

ごあいさつ

私達混声合唱団のある近江八幡市は、日本列島の真ん中部にあり、

国際観光都市京都へも電車で30分のところです。

ラムサール条約にも指定されている琵琶湖のそばにあり、

風光明媚な土地です。

今回、縁あって音楽の町ウィーンで歌う機会に恵まれ、

みんな、夢のような気分です。

今日、歌います曲の歌詞には、

日本の美しい風景や日本文化が溶け込んでいますが、

歌で表しきれないために、今回この様なパンフレットを用意しました。

今宵、憧れの地ウィーンで、精一杯楽しく合唱したいと思います。





Die Szenen aus den vier Jahreszeiten Japans

日本の美しい四季の情景

春

日本人にとって桜の花は、春の到来を告げる特別な花と申せます。桜は3月末から5月にかけて、日本列島を北上しながら咲いて行きます。野原には黄色い菜の花が咲き、空には鯉のぼりが泳ぎ、そして稲田には水が張られて稲を植える季節となります。

夏

6月には雨期を迎え、水路には日本らしい菖蒲（あやめ）の花が咲き乱れます。そして小川ではホタルが夜空に飛び交います。木立では蝉の声が鳴り響き、暑い夏を迎えて海水浴のシーズンとなります。

秋

秋は収穫の季節、天の恵みに感謝してあちこちの村々で秋祭りが始まります。秋の空気は澄み渡り、十五夜の月を楽しむ季節です。そして山々は赤や黄色に一面に染まり、紅葉を求めて行楽に出かけます。

冬

大陸からの寒波で厳しい寒さが続き、場所によっては数メートルの雪が積もります。それでも、北の北海道と南の沖縄では気温差が40～50度になる日もあります。新年を迎える正月には全国各地の神社では、大勢の初詣客で賑わいます。



春

夏

秋

故郷を主題にして、春・夏・秋・冬の
日本の原風景をメドレーで歌います。
なお、これらの歌は1896～1912年
ごろから全国の小学校の唱歌として
歌いはじめられたものです。

ふるさと

日本人の心の原風景とも言える素朴な農漁村
の姿は、今も各地に残っています。
日本人の誰もが「ふるさと」の歌を歌うとき、
心を和ませ、ときには勇気づけられ、ときには
涙を浮かべて昔を懐かしむという、たいへ
ん詩情あふれる歌です。

兎追いし かの山
小鮒釣りし かの川
夢は今も めぐりて
忘れがたき 故郷

如何に在ます 父母
恙なしや 友がき
雨に風に つけても
思い出ずる 故郷

志を はたして
いつの日にか 帰らん
山は青き 故郷
水は清き 故郷



近江八幡市

近江八幡は多くの商人・経済人を生み出した文化商業都市です。
16世紀に天下統一を図った織田信長の居城「安土城」跡、さらに
町の開祖である豊臣秀次の居城「八幡山城」跡があります。

春の火祭りは1400年の伝統を持つ祭りで、今も毎年格調高く
盛大に奉納されています。

また、近くには櫓漕ぎ舟で水郷巡りを楽しめる場所もあり、地
方小都市ながら全国から大勢の観光客で賑わっています。

